

クラウド(cloud)とオンプレ(on premises)それぞれのセキュリティとコストについて

企画連携課 谷田 幸宏

近年、クラウド(cloud)という言葉をよく聞くようになりました。クラウドとはインターネット上のサービスを利用する形態を指します。一方で、皆さんはオンプレという言葉をご存じでしょうか？ オンプレとはオンプレミス(on premises)という言葉の略で、「自社保有」という意味があります。クラウドとオンプレは、システムを導入する際によく比較検討されます。本記事ではクラウドとオンプレの現在の特徴について、簡潔にご紹介します。

クラウドとオンプレ

クラウドがインターネット上に存在するサービスを利用するのに対して、オンプレは自社内にサーバを保有してサービスを展開します。これらを図示すると下図のようになります。

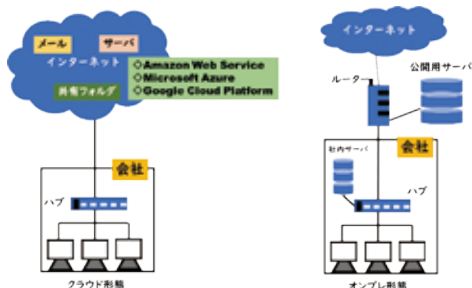


図 クラウドとオンプレの形態

近年はクラウドのサービスとしてAWS (Amazon Web Service)、Azure (Microsoft Azure)、GCP (Google Cloud Platform) が有名です。これらはサーバとして機能させることは勿論、蓄積したデータをAIで解析させることも可能で、その有用性が高まっています。また、インターネット上のサービスなので、新しく機器を購入する必要はありません。使用量に応じた費用(従量課金制)が必要なだけです。

一方で、オンプレはセキュリティが堅牢で、自社好みにカスタマイズすることが可能です。初期の導入費用としては高つく

ますが、自社にとって一番良い形を追求するのであれば、オンプレを検討する必要があるでしょう。

クラウドとオンプレの特徴

現在、クラウドとオンプレにはそれぞれ下表のような特徴があるとされています。コストならクラウド、セキュリティならオンプレというイメージがありましたが、近年はクラウドのセキュリティも十分高く、クラウドでサーバ構築するケースも増えています。

表 クラウドとオンプレの特徴比較

	クラウド	オンプレ
初期費用	安い	高い
カスタマイズ性	オンプレと比較して自由度は低いが、近年は自由度が高くなってきている	自由度が高い
セキュリティ	近年強化されてきている	強い
導入スピード	速い	遅い
障害対応	ハイパーバイザーまでは業者、OS以上はユーザーが対応	自社で行う
ソフトウェアサポート終了時	提供元で対応して更新	自社でリプレイス
既存システムとの連携	連携が難しいケース有り	連携しやすい

さらに詳しい情報は当技術センターのWebサイトで

誌面の都合で紹介できなかったDX(デジタルトランスフォーメーション)に関する技術情報をWebサイトで掲載しています。ぜひご覧ください。

https://www.kptc.jp/gijutsushien/technote/2021_01



●お問い合わせ先 / 京都府中小企業技術センター 企画連携課 デザイン情報係 TEL: 075-315-9506 E-mail: kikaku@kptc.jp

ベンチャー企業 支援業務の ご案内

業務内容

- ベンチャーファンドによる株式投資やご融資を通じて、事業資金のサポートを行います。
- 資金面の支援にとどまらず、公的機関・専門機関・大学等のネットワークである「京銀活き活きベンチャー支援ネットワーク」等を通じ、経営相談をはじめベンチャー企業のあらゆるニーズにお応えします。

公的機関
連携

大学
連携

民間支援機関
専門家集団
連携

京都銀行
法人総合
コンサルティング部
創業成長支援グループ

支援・育成

ベンチャー企業等

支援施策

- ベンチャーファンド
- 事業性融資
- 「京銀活き活きベンチャー支援ネットワーク」の活用
- 各種支援機関紹介
- ビジネスマッチング
- セミナーなどの開催

飾らない銀行
京都銀行